

= 現地説明会資料 =

梵天山古墳の発掘調査

調査主体：常陸太田市教育委員会
測量図作成：（有）三井考測

年 度	令和2年度
家 族 名	02. 梵天山古墳群地形測量調査家系
遺 跡 名	梵天山古墳群
遺 構 名	梵天山古墳
遺 跡 類	3紀五世紀地形測量図（平面図）
調査番号	1 / 4
測量期間	2020年6月～2021年3月
縮尺(1/600 (1000))	0 10m

調査成果①

後円部（主に盛土部分）には河原石などを葺石として貼り付けてあることを確認しました。

調査成果③

古墳築造以前の堀跡とおもわれる遺構を確認しました。
（墳丘下に古墳時代以前の堀跡を確認したことは全国的にも珍しい発見事例です。）

調査成果④

旧表土が墳丘中段付近で確認でき、墳丘の大半を削り出して築造していることがわかりました。

概要

梵天山古墳は久慈川支流の山田川右岸に接する独立丘陵上標高20～25 mに位置する全長151mの前方後円墳です。古墳時代前期の築造とされており、この時期の古墳としては、東日本最大級の規模を誇ります。
令和3年度に第1次発掘調査が行われ、第1次調査の課題と成果を踏まえ、さらなる実態解明を目指し、今年度2回目となる発掘調査を実施しました。

調査成果②

くびれ部に凝灰質泥岩が貼り付けてあることを確認しました。（葺石の代わりに貼り付けられ、装飾的意味の可能性があります。）

凡 例

- ：令和3年度調査トレンチ
- ：令和6年度調査トレンチ
- ：葺石想定ライン
- ：凝灰質泥岩が貼り付けられた箇所
- ：堀跡の位置

禁転載